

平成27年度「きのさき見て歩き」第4回開催しました

10月3日（土）、「きのさき見て歩き」第4回を開催しました。今回は「城崎の宝庫を訪ねる」というテーマで高野山真言宗温泉寺を見学しました。



温泉寺本堂（国指定重要文化財）南北朝時代



千手観音立像（国指定重要文化財）平安時代

<温泉寺縁起図に描かれた城崎温泉>



温泉寺縁起図（豊岡市指定文化財）



温泉寺の由来を聞く



道智上人像

温泉寺副住職、小川祐章さんから、温泉寺縁起図に描かれた温泉寺の由来や、城崎温泉の起源をお聞きしました。～縁起図の上段には、^{あめのひぼこ}天日槍の子孫、^{ひうげごんのかみ}日生下権守が四所神社を建てた様子が描かれています。中段には、^{どうち}道智上人が城崎にお入りになり、四所明神の神託により千日修行を修め養老4年（720年）に温泉を湧出させた話、そして下段には、湯島付近の全景図とともに、温泉寺のご本尊十一面観音立像の由来が描かれています。長谷寺の十一面観音像を造った大和国の仏師^{けいぶん}稽文が、同じ木からもう一体の観音像を造ろうとしましたが、病のため未完のまま、長楽寺に安置したところ、村で疫病が流行しました。人々は観音様の祟りと、像を海に投じてしまいました。やがて、その像は円山川観音浦に漂着しました。偶然、城崎に湯治に来ていた稽文がこの像と再会し、完成させて道智上人に託します。像はいったん弁天山に安置されましたが、観音像の額から光がでて、今の温泉寺のあるところを照らしました。こうして温泉寺が建てられて本尊としてその十一面観音立像が安置されているということです～

城崎温泉の湯は、道智上人によって湧出した湯、かつては温泉寺に参詣し、道智上人の御手がわりの湯杓をいただいて霊湯を浴びるのが作法だったそうです。湯杓→



参加者の方からも、「今度孫が来たら、ぜひ城崎の話を語ってやりたい」と感想をいただきました！

